

2017年1月31日

関係各位

野村ホールディングス株式会社  
コード番号8604  
東証・名証第一部

## 2017年3月期第3四半期の連結決算について

野村ホールディングス株式会社(グループCEO:永井浩二、以下「当社」)2017年3月期第3四半期(2016年10-12月、以下「当四半期」)の連結決算の概要をお知らせします。

当四半期の収益合計(金融費用控除後)は3,686億円、税前利益は959億円、当社株主に帰属する当期純利益は703億円でした。

また、2017年3月期第1-第3四半期(2016年4-12月)累計の収益合計(金融費用控除後)は1兆541億円、税前利益は2,405億円、当社株主に帰属する当期純利益は1,784億円となりました。

グループCEO永井浩二のコメントは次のとおりです。

「第3四半期は、すべてのビジネス部門が前四半期比で増収増益となり、グループ全体でも6四半期ぶりの高い利益水準となりました。特に、海外では、収益機会を的確にとらえるとともに、今まで取り組んできたコスト削減の取り組みが奏功し、3四半期連続で税前黒字を達成しました。

営業部門は、従来からのビジネスモデル変革への取り組みを進める中、市場の回復を受けてお客様の投資マインドが改善したこともあり、株式や債券、投資信託の買付が大幅に増加しました。アセット・マネジメント部門は、市場要因のほか投信や投資顧問への継続的な資金流入があり、運用資産残高が過去最高を更新しました。ホールセール部門は、為替ビジネスや金利関連ビジネス等の貢献により、前四半期に引き続きフィクスト・インカムが収益を牽引し、海外での継続的なコスト管理の効果もあり高水準の利益を計上しました。

当社は今後もスローガン『Vision C&C』の下、自らの変革に果敢に挑戦し続け、『アジアに立脚したグローバル金融サービス・グループ』としての揺るぎない地位を確立し、今まで以上の未来を目指していきたいと思っております。」

## 決算ハイライト

### ● 2017年3月期第1-第3四半期(2016年4-12月)累計

- 2016年は、各国の金融政策や、EU離脱をめぐる英国の国民投票、米国大統領選挙など、市場に大きな影響を与えた出来事が続きました。年の後半に向けて、株式市場では投資家がリスクオンに転じ、債券市場では金利や為替の急激な変動を受け、投資家のポートフォリオの入れ替えが活発になりました。
- こうした環境の中、全社の税前利益は2,405億円と前年同期比35%の増益となりました。営業部門は前年同期比では収益・税前利益ともに低調でしたが、2017年3月期第1四半期を底に回復傾向にあります。アセット・マネジメント部門は運用資産残高が過去最高を更新し、ホールセール部門でも、フィクスト・インカムの収益拡大に加え、コスト削減が寄与したことで大幅な増益となりました。海外ビジネスは全地域が黒字化し、税前利益も714億円と、全社税前利益の3割にまで拡大しました。

### ● 当四半期

- 全ビジネス部門が前四半期比で増収増益となりました。全社の税前利益は前四半期比17%増の959億円と、昨年の第4四半期を底に利益水準が大幅に回復しました。海外ビジネスは3四半期連続の税前黒字を達成しました。
- 当四半期末現在の連結貸借対照表の資産合計は43.1兆円、株主資本は2.8兆円でした。当四半期末における速報値(バーゼル3基準)で、連結Tier 1比率は18.5%、連結普通株式等Tier 1比率は17.6%となっています。

	2017年3月期 第3四半期	前四半期比	前年同期比	2017年3月期 第1-第3四半期	前年 同期比
収益合計 (金融費用控除後)	3,686億円	+6%	+4%	1兆541億円	△6%
税前利益	959億円	+17%	+86%	2,405億円	+35%
当期純利益	703億円	+15%	+99%	1,784億円	+18%

## 当四半期の各部門の状況

### ● 営業部門

収益合計(金融費用控除後)は1,013億円、税前利益は259億円でした。米国大統領選挙後、株高・円安の流れが急速に進む中、お客様の投資マインドが改善し、株式・投資信託・債券の取引が活発になりました。

総募集買付額は3兆円を超える水準まで回復しました。特に、セカンダリーを中心とした国内外の株式や、個人向け国債、外債などの債券販売が大きく増加しています。また投資信託では、米国ハイ・イールド債や米国株式のファンドに資金が流入しました。

	2017年3月期 第3四半期	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	1,013億円	+18%	△3%
税前利益	259億円	+80%	△7%

### ● アセット・マネジメント部門

収益合計(金融費用控除後)は289億円、税前利益は2002年3月期以降で最高の四半期利益となる140億円でした。当四半期も投資信託・投資顧問ビジネスで資金が流入し、当四半期末の運用資産残高は43.2兆円と、過去最高の水準となりました。

投資信託ビジネスでは、ETFや地域金融機関向けの私募投信への資金流入が堅調でした。投資顧問ビジネスでは、ハイ・イールド・プロダクトを中心に、オーストラリアや中国の機関投資家から運用を受託しました。

昨年5月に出資が完了したアメリカン・センチュリー・インベストメンツとは、同社が運用する「米国バリュー・ストラテジー・ファンド」を日本のリテール顧客向けに設定・販売したほか、さまざまな協業が進んでいます。

	2017年3月期 第3四半期	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	289億円	+36%	+14%
税前利益	140億円	+88%	+30%

● ホールセール部門

ホールセール部門の収益合計(金融費用控除後)は1,973億円、税前利益は474億円でした。顧客アクティビティ増加にともなう収益機会を的確に捉え、特にフィクスト・インカムが収益を牽引しました。地域別では米州とアジアが好調でした。コストの抑制にも努めた結果、前四半期比で増収増益となりました。

- グローバル・マーケットでは、フィクスト・インカムが金利関連ビジネスや新興国の為替ビジネスの好調を背景に収益を牽引し、高水準の収益を達成しました。エクイティは、デリバティブが減速しましたが、日本や米国での市場出来高の増加を背景に株式執行ビジネスが回復し、前四半期比で横這いとなりました。
- インベストメント・バンキングでは、日本企業によるエクイティ・ファイナンスが減少し、日本の収益は前四半期比で減収となりましたが、ビジネスや地域を超えた収益源の多様化が進み、特に米州とアジアが健闘しました。グローバルなフランチャイズを活かし、クロスボーダー案件やM&Aに付随する複合化案件を多数獲得しました。

	2017年3月期 第3四半期	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	1,973億円	+10%	+6%
税前利益	474億円	+21%	4.8倍

以上

詳細につきましては、当社ホームページ(<http://www.nomuraholdings.com/jp/investor/>)にて掲載の決算短信および決算説明資料をご覧ください。また、本日(2017年1月31日)午後6時30分より、決算説明会(テレフォン・カンファレンス)を開催する予定です。この模様は、当社ホームページ(<http://www.nomura.com/jp/>)を通じてライブ配信します。

本資料は、米国会計基準による2017年3月期第3四半期の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。本資料に含まれる連結財務情報は、監査対象外とされています。

本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。本資料は、2016年12月31日現在のデータに基づき作成されています。なお、本資料で使用するデータおよび表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますのでご了承ください。

本資料は将来の予測等に関する情報を含む場合がありますが、これらの情報はあくまで当社の予測であり、その時々状況により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改訂する義務を負いかねますのでご了承ください。

本資料のいかなる部分も一切の権利は野村ホールディングス株式会社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。